

# 高田援護室長の模型部屋(第4回)

皆さんこんにちは！

学生の方々は、中間試験や定期テスト…試験が続き、さらに体育祭や各種部活動の大会に忙しい時期かと思います。大変でしょうけど頑張れば成果が付いてくると思いますので、後悔のない様に思いっきり取り組んでくださいね。

とはいえ、勉強だけはそう簡単には取り組めないものですよね。私も勉強が大嫌いでした。当然、私の娘達も勉強が嫌いなので、あの手この手でおだてて、エサ(お菓子)を与えて勉強をやらせています。

最近私のプラモを作る机で勉強するのがはかどるようで、広くて各種文房具がそろっている机は格好の勉強場所なのだそうです。おかげでプラモが作れず、製作するペースが落ちてしまいました。勉強する娘達に勉強するなとも言えないし…

そんな中、娘達の勉強の合間を縫って作ったのが…



**60式自走106mm無反動砲**です。

以前に「所長の模型部屋」時代にブレイブモデルさんのレジンキャストキットを紹介しましたが、今回はファインモールドさんの新製品キットを作りました。昭和の自衛隊を代表する装備品なので、思い出のある方も多いと思います。

本キットは車内もモデル化されているので、内部が見えるように射撃姿勢で作ってみました。乗員も旧迷彩服で塗装しました。部隊は北海道の第7師団時代の第24普通科連隊所属車両にしました。昭和59年に北海道の東千歳駐屯地から九州のえびの駐屯地へ移駐した部隊です。先日、第24普通科連隊OBの方にお聞きしたのですが、大変だったそうです。そりゃそうですよね。北海道から九州ですから…



子供の頃、初めて高田駐屯地を見た頃を思い出し、小学生の目線から見た106mm無反動砲のイメージ写真(笑)です。履帯の上に大砲が積載される戦闘車両に「カッコイイ！」の一言でしたね。「戦車だ、戦車だ！」とはしゃいでいました。あの頃は履帯と大砲の組み合わせ車両はすべて戦車だと疑っていませんでした。



駐屯地記念日の模擬戦で見た射撃姿勢。ニューツと砲塔が伸びて「ドッカーン！」無反動砲の射撃音は空砲でも周囲の空気を震わせるほどの衝撃がありました。音が怖くて両耳を手で力いっぱい押さえていましたね。



塗装はGSIクレオスのオリーブドラブ(1)を使用しました。いつも使用しているブラウンバイオレットが切れていたもので(泣)

基本塗装終了後、サクラマット水彩マルチ絵の具でスミ入れ、その後タミヤウェザリングスティックで泥をのせ、濡れ綿棒で雨で流れる方向に上から下に拭き取ります。また、乗下車時に足を置くハッチ周辺やフェンダー、エンジngrilル周りに泥を点々と付着させます。泥や埃で塗装の表面は傷が付き光沢がなくなるので、拭き取った後に光沢が無くなるように強めに擦ります。



車長用潜望鏡、操縦手用潜望鏡は透明部品で出来ていましたので、実車同様に潜望鏡の鏡部を銀色にし、その他の内側を白色、その上側に車体色を塗装しました。するとなんということでしょう、ほとんどわかりません(泣) まあ、自分が満足すればいいんです…



乗員は旧迷彩服にしました。手元に残っている写真や私が陸士の当時使っていたヘルメットカバーの旧式迷彩パターンを参考に塗りました。もう少し細かくしなければならなかったな。最近の諸外国の迷彩服はデジタル迷彩が流行ですが、筆塗りでは無理です。デジタル迷彩反対!!(笑)



射撃時は砲塔が半開放になります。あくまで一撃離脱の火砲なので、密閉の砲塔は要らないのかもしれませんが、なんか足が見えて脆弱…



足回りの泥は、転輪の隙間や車体側面にこびりつかせる程度にしています。実際、乾くと草木との摩擦で転輪や車体の泥が落ちることがあります。逆に履帯・転輪内側の車体側面は接触物がないので泥が付着してそのまま固まってしまう。これを落とすのが苦勞するんです。洗車するときはドライバーやスコップで大まかに落としてからでないと洗えません。



以前紹介した走行状態の同無反動砲です。射撃するときはこれだけ砲がせり上がるのですから、隠蔽状態で射撃されたらわかりませんよね。



同時代に訓練をしたであろう第7偵察隊のM41戦車、第7戦車大隊のM24戦車とならべてみました。当時の訓練風景を想像して遊びます(笑)



前回紹介した61式戦車と並べて対機甲戦闘演習のイメージ写真です(笑)。  
砲の下からのアングルは、よくドイツの戦場写真にありますよね。



昭和を代表する装備品、いかがでしたでしょうか。もっとも平成まで使用されていましたがね。  
長きに渡り、自衛隊の対戦車戦闘の中心として頑張ってくれた装備品です。  
では、今回はこれまで。また自己満足の世界にお付き合いくださいね！

追伸、7月3日(日) 柏崎模型展にて作品を展示します。ぜひ遊びに来てくださいね！！